

\あつまれ!!/\

# かながわのはにわ

令和7年度 かながわの遺跡展



神奈川県教育委員会  
海老名市教育委員会  
横須賀市教育委員会

## ごあいさつ

埴輪は、今から約1,750年～1,400年前の古墳時代に、当時の権力者の墓である古墳に並べられていました。埴輪には、円柱の形をした円筒埴輪や、家や人の形をモデルに作られた形象埴輪があります。古墳時代初頭に近畿地方を中心に埴輪は成立し、前方後円墳とともに日本列島各地に広がります。

埴輪は古墳時代研究において、当時の儀礼や被葬者の功績を表現するものとして重視されています。また、当時の人々の生活や服飾などの文化を知る上でも重要な資料です。

神奈川県では3世紀後半から4世紀前半にかけて築造された古墳から、円筒埴輪をモデルにしたと考えられる土製品が出土しています。県内で埴輪が本格的に登場するのは4世紀後半以降と考えられており、壺形埴輪、円筒埴輪、朝顔形埴輪からはじまり、5世紀後半には人や動物をモデルにした埴輪が古墳に並べられるようになりました。

今年度のかながわの遺跡展「あつまれ！！かながわの埴輪」では、神奈川県内で出土した埴輪を展示します。神奈川県内における埴輪の出現期の様相や、埴輪の生産遺跡からの供給や流通、かながわの埴輪の様相などをご紹介します。本展示を通して、かながわの古墳文化を知るきっかけになれば幸いです。

令和7年12月

神奈川県教育委員会  
海老名市教育委員会  
横須賀市教育委員会

## 目次

はじめに	1	II 埴輪の生産と供給	10
—埴輪の起源—	1	—白井坂埴輪窯跡—	12
—埴輪の種類—	2	—西福寺古墳—	13
—埴輪の使い方—	3	—二子塚古墳—	13
I 埴輪の登場 in かながわ	4	—生出塚遺跡—	14
—秋葉山第3号墳—	4	—北門1号墳—	15
—秋葉山第2号墳—	5	—久本山古墳—	15
—谷津金ノ台遺跡第Ⅲ地点—	5	III かながわのはにわ	16
—稲荷前16号墳—	6	—朝顔形埴輪—	16
—小田原城跡八幡山遺構群—	6	—円筒埴輪—	17
—長柄桜山第1号墳—	7	—家形埴輪—	18
—長柄桜山第2号墳—	7	—器財埴輪—	19
—桜山うつき野遺跡—	8	—動物埴輪—	21
—小金塚古墳—	8	—人物埴輪—	23
—瓢箪塚古墳—	9	IV おわりに	28
—片瀬大源太遺跡—	9		

## 例言

- ・本図録は、令和7年度かながわの遺跡展「あつまれ！！かながわの埴輪」の展示図録として作成しました。
- ・本展示会は、神奈川県教育委員会（埋蔵文化財センター）・海老名市教育委員会・横須賀市教育委員会の共催によるものです。
- ・展示会場と会期は次のとおりです。  
【海老名会場】海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」 令和7年12月18日（木）～令和8年1月25日（日）  
【横須賀会場】横須賀市自然・人文博物館 令和8年2月5日（木）～3月8日（日）
- ・会期中に講演会を次のとおり行います。  
第1回 令和7年12月21日（日） 山本亮氏（東京国立博物館主任研究員） 於：海老名市役所401会議室  
第2回 令和8年1月11日（日） 伝田郁夫氏（芝山町立芝山古墳・はにわ博物館主任学芸員）  
於：海老名市役所401会議室  
第3回 令和8年3月1日（日） 塚田良道氏（大正大学文学部教授） 於：横須賀市自然・人文博物館 講座室
- ・本図録に記載した出土品等の所蔵・保管先について、神奈川県教育委員会所蔵のものは、記載を省略しています。
- ・遺跡名称等の記載は、表記の統一を除き、原則として報告書等の記載に従っています。
- ・本展示の企画・図録作成は、海老名市教育委員会教育総務課（担当 和田山千暁）、横須賀市自然・人文博物館（担当 萩野はな）の協力を得て、神奈川県教育委員会文化遺産課中村町駐在事務所（埋蔵文化財センター）の小林萌絵が行いました。

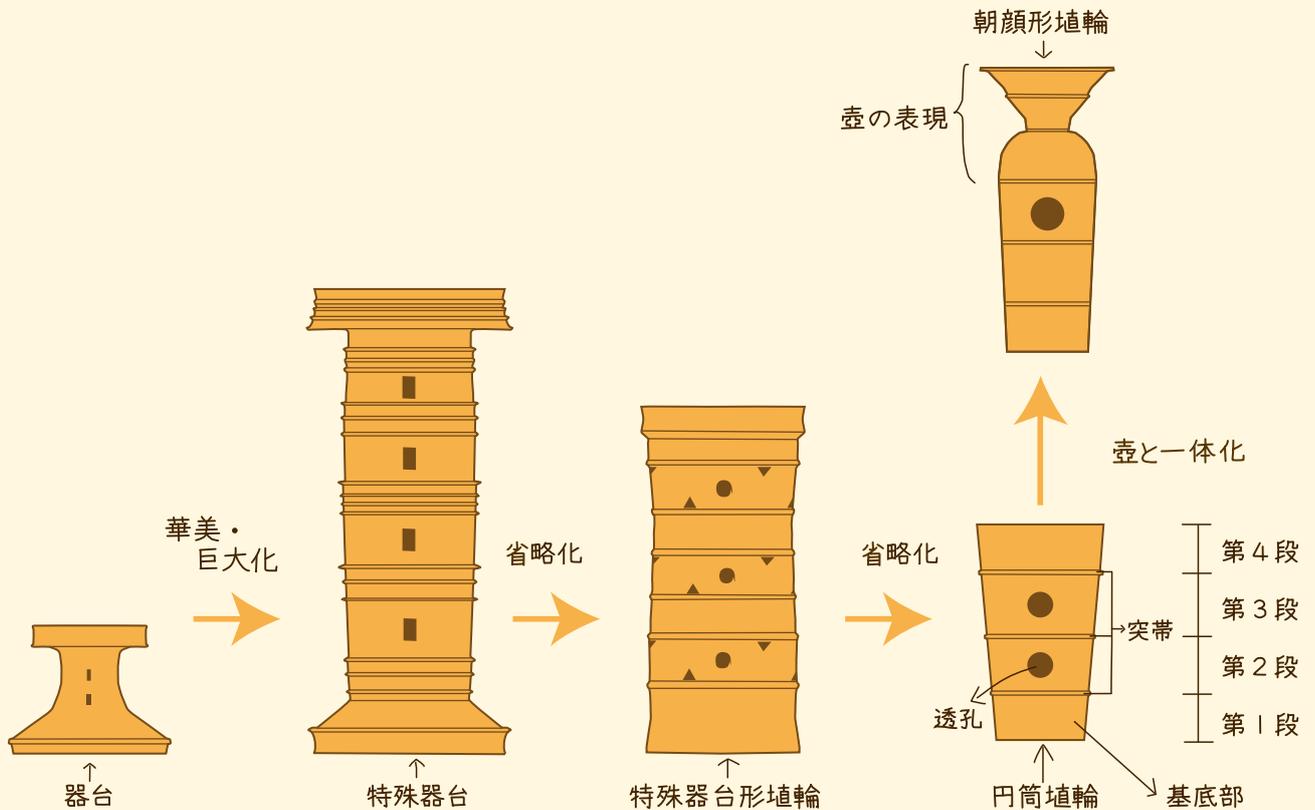
# はじめに

## 一 埴輪の起源一

埴輪の起源は、弥生時代の墳丘墓ふんきゅうぼに置かれた特殊器台とくしゅきだいです。特殊器台は、弥生時代後期（3世紀前半）の吉備地方（現在の岡山県周辺）で作られました。普通の器台や壺より、形が大きく、装飾が華美なところが特徴です。特殊器台の形や文様、透孔とうこう（）は、時間が経過するにつれて、省略されていきます。

弥生時代後期から古墳時代初頭（3世紀後半）には、特殊器台と比較すると底の部分（基底部きていぶ）が真っすぐに変化した特殊器台形埴輪が登場します（）。そして、この特殊器台形埴輪は円筒埴輪えんとうはにわに変化します。また、壺形埴輪あさがおがたはにわと円筒埴輪が一体化した朝顔形埴輪が登場するようになります。

※このマーク（）があるときは、ハニワ君がお話しているので、確認してみてください。



### 1 特殊器台から埴輪へ

埴輪にあいている穴は「透孔」  
っていうよ。丸形（○）や三角形（△）、四角形（□）、とこも巴形（Q）、いろいろな形の穴があいているんだ。特殊器台だったとき、文様（弧帯文）を映えさせるために穴をあけていたんだけど、その名残らしいよ。弧帯文は二本一束の帯によって弧や渦が形成された文様のことだよ。イメージはこんな感じ（）かな。帯の中を線で埋めてる場合が多いよ。

特殊器台の基底部には突帯が付けられているよ。形もラッパ状に開いているよ。特殊器台形埴輪に変化するとき、底の作りが、簡単になっているのがわかるね。

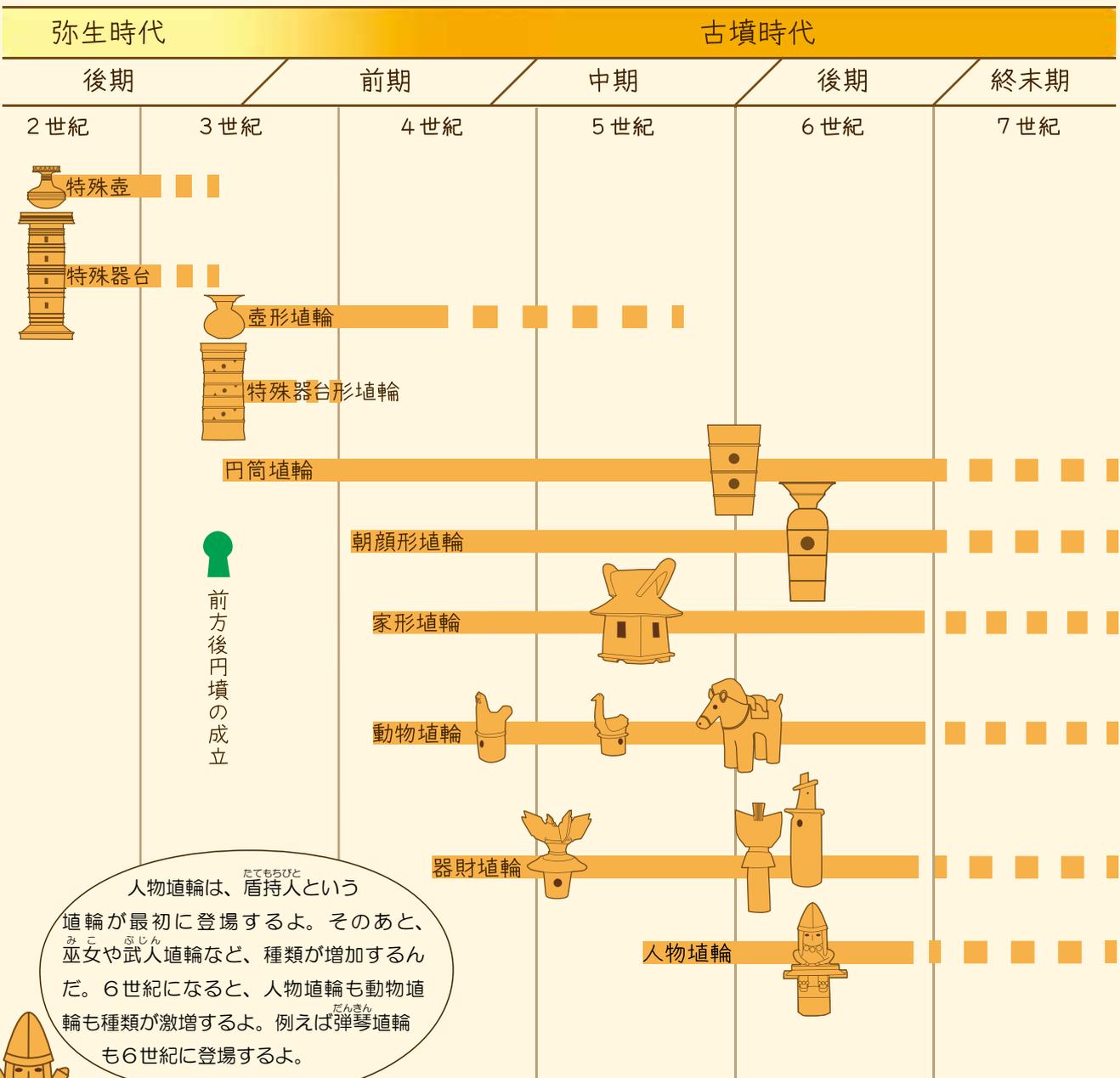


# 一埴輪の種類一

埴輪はおもに円筒埴輪と形象埴輪（家形埴輪・器財埴輪・動物埴輪・人物埴輪（）など）に分けられます。筒形の形をした円筒埴輪は、3世紀後半から古墳に並んでいました。

建物の形をモデルにした家形埴輪は4世紀前半に登場します。動物埴輪は、動物の種類によって登場した時代に差があります。動物埴輪のなかで最初に登場したのが鶏形埴輪です。鶏形埴輪は4世紀中葉に登場しました。次に、4世紀後半に水鳥形埴輪が登場します。5世紀前半、日本列島に馬が導入されたことにより、馬形埴輪が登場します。武器や武具、威儀具（権力者が身分や、威厳を示すために用いた特別な道具）を模った器財埴輪は4世紀中葉に登場します。最後に登場したのが、人物埴輪です。5世紀中葉以降の登場になります。

そして、関東地方では古墳時代後期（6世紀以降）に埴輪文化が最盛期を迎え、様々な種類の埴輪が作られるようになります。



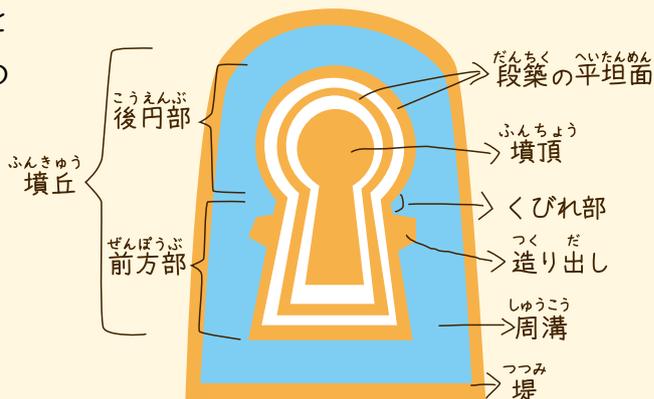
2 埴輪の年表



## 一 埴輪の使い方

埴輪は、埴輪窯跡を除くと、基本的に古墳から出土します。円筒埴輪や朝顔形埴輪は古墳を取り囲むように墳頂や段築の平坦面に大量に並べられます。このことから、権力者の墓である古墳の威儀を整えたり、古墳に悪いものが寄り付かないように防いだりする「結界」のような目的で並べられていたと考えられています。形象埴輪は、古墳時代前期には後円部の埋葬施設の上、古墳時代中期には墳丘の造り出し、古墳時代中期後半から後期には段築の平坦面や堤と、配置される場所が時代とともに変化します。人物埴輪は古墳の被葬者（古墳に埋葬された権力者）本人やその人に仕えた人々がモデルで、これらの人物埴輪を含め、形象埴輪が置かれるようになった理由としては以下のように考えられています。

- ① 被葬者が生前行った儀礼や政治等の再現と保有した武器・武具・宝物等（威信財）の誇示
- ② 荘厳な葬送儀礼の再現
- ③ 被葬者を取り巻く死後の世界を表現



3 古墳各部分の名称

## 番外編 ～古墳いろいろ～

埴輪が出土する古墳には形にいくつかの種類があります。古墳の形には、葬られた人の地位、時期的な流行、地方色などを強く反映していると考えられています。古墳出現期（3世紀中葉）に登場したのは、方形と円形が合わさった形の前方後円墳です。5世紀には日本列島全体に広まり、7世紀初めには消滅します。前方後円墳の前方部の長さが短くなった形の古墳もあり、帆立貝形古墳と呼ばれています。帆立貝形古墳は前方後円墳に埋葬された人よりも、地位の低い人が埋葬されていると考えられています。

方形と方形をあわせた形の前方後方墳は、古墳時代前期（3世紀後半から4世紀）に広く使われていました。基本的には前方後円墳の被葬者より下の地位の人が埋葬されました。前方後方墳のルーツは東海地方西部の弥生墳丘墓にあると言われています。

円墳は前方後方墳より下位に位置づけられる最も一般的な古墳です。古墳時代中期（5世紀）以降に小型の古墳が一定のエリアに集中して築かれる群集墳でも主体を占めます。

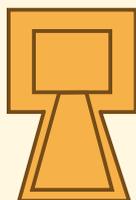
方墳は、円墳に次いで多く造られた古墳です。円墳よりも下位に位置づけられます。しかし、前方後円墳が消滅した古墳時代終末期以降の方墳は、最上位の位置づけに変化します。



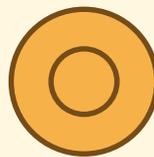
前方後円墳



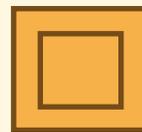
帆立貝形古墳



前方後方墳



円墳



方墳

4 古墳の形と名称

# 1. 埴輪の登場 in かながわ

神奈川県では、弥生時代から続く、壺を墳丘墓に供える祭祀が、古墳時代になっても続きました。神奈川県において最古の古墳である海老名市秋葉山第3号墳（古墳時代前期初頭）や、そのあとに築造される海老名市秋葉山第2号墳（古墳時代前期前半）、南関東では古い段階の前方後方墳である横浜市緑区稲荷前16号墳（古墳時代前期後半）からは埴輪の出土は確認されず、壺を配置する弥生時代から続く伝統的な祭祀が用いられています。

古墳時代前期末葉以降になると、伊勢原市小金塚古墳や海老名市瓢箪塚古墳、小田原市小田原城跡八幡山遺構群、藤沢市片瀬大源太遺跡などで埴輪が登場します。また、三浦半島側では逗子市と葉山町にまたがる長柄桜山第1号墳・第2号墳から埴輪が出土しています。



5 本章で紹介する遺跡位置図①

## — 秋葉山第3号墳 —

秋葉山古墳群は海老名市に所在し、相模川の東岸に位置します。尾根上に築かれた古墳群で、前方後円墳が3基、前方後方墳と方墳が1基ずつ確認されています。2005年7月に国の史跡に指定されました。

第3号墳は、古墳時代前期初頭（3世紀後半頃）に築造された古墳です。東日本の中でも古い段階の古墳である可能性が高いです。

現在は後円部しか残っていませんが、古い記録から全長50mほどの前方後円墳であったと考えられています。壺や水銀朱の付着した鉢・高坏が出土しています。



6 壺(海老名市秋葉山第3号墳出土)

あきはやま  
—秋葉山第2号墳—

第2号墳は、第3号墳に続いて築造された古墳時代前期前半（3世紀末～4世紀初頭）の前方後円墳です。第2号墳の特徴的な点は、円筒形土製品や、祭祀・儀礼でしか使われない実用性のない底部穿孔壺（）、二重口縁壺とみられる土器、水銀朱の付着した片口鉢が出土しているところです。円筒形土製品は、透孔や突帯などがありませんが、特殊器台形埴輪や円筒埴輪を意識して作られたものと考えられています。



7・8 円筒形土製品(海老名市秋葉山第2号墳出土)

9 壺(海老名市秋葉山第2号墳出土)

やつかねのだい  
—谷津金ノ台遺跡第Ⅲ地点—

谷津金ノ台遺跡は小田原市に所在し、足柄平野東側に流れる酒匂川右岸の丘陵上に位置しています。この遺跡が位置する丘陵は谷津丘陵と呼ばれています。

この遺跡から古墳時代前期（4世紀頃）の前方後円墳の周溝が発見され、周溝からは、破片を含め、少なくとも5個体の焼成前底部穿孔壺が墳丘が出土しています。



10 底部穿孔壺

(小田原市谷津金ノ台遺跡第Ⅲ地点出土)

底に孔（穴）をあけた壺を「底部穿孔壺」と呼ぶよ。土器を焼く前に孔をあけた場合は「焼成前底部穿孔壺」、焼いた後に孔をあけた場合は「焼成後底部穿孔壺」と言ったりするよ。

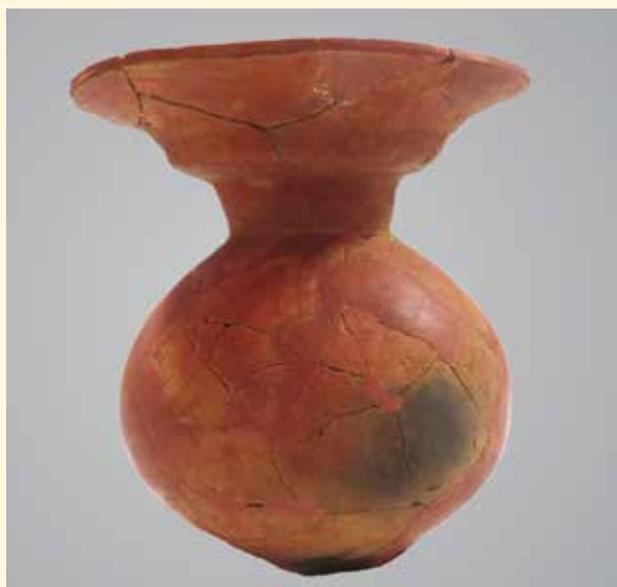
「二重口縁壺」は、口縁部が二重の段（直角に屈曲したあと、さらに大きく外側に開いた状態）になった形の壺のことだよ。



## いなりまえ —稲荷前 16号墳—

稲荷前16号墳は横浜市青葉区に所在し、鶴見川の支流にあたる谷本川を望む丘陵上に位置します。稲荷前古墳群のうちの一基で、全長38mの前方後方墳と考えられています。古墳時代前期（4世紀中葉）以降に築造された古墳と考えられており、南関東の前方後方墳のなかでは古い段階ものと考えられています。

周溝からは赤彩された焼成前底部穿孔壺底部穿孔壺土器(壺)が出土しています。



11 底部穿孔壺(横浜市青葉区稲荷前16号墳出土)



焼成前底部穿孔壺は、  
焼く前に底に孔をあけた壺の  
ことだけど、貯蔵用の壺として使  
うつもりがなく、最初からお墓に  
お供えするために作ったみたいだ  
ね。

## おだわらじょうせきはちまんやまいこうぐん —小田原城跡八幡山遺構群—

小田原城跡八幡山遺構群は小田原市に所在します。小田原駅周辺に延びる丘陵の先端付近に立地し、県立小田原高校の校地周辺に位置しています。

戦国時代の小田原城の八幡山古郭本曲輪北堀跡を埋めていた土の中から壺形埴輪の破片が出土しました。古墳の周溝の一部を拡幅して小田原城の堀とした可能性があります。

壺形埴輪の形状から、古墳時代前期（4世紀後半）と考えられます。壺形埴輪片は本曲輪「高台」と呼ばれる小高い高まりのすぐ下から出土したため、高台が古墳であった可能性も考えられます。



12 壺形埴輪(小田原市小田原城跡八幡山遺構群出土)

壺形埴輪の口縁部です。13の壺形埴輪と同一個体と考えられています。



13 壺形埴輪(小田原市小田原城跡八幡山遺構群出土)

壺形埴輪の口縁部です。12の壺形埴輪と同一個体と考えられています。

## ながえさくらやま —長柄桜山第1号墳—

長柄桜山第1号墳は、逗子市と葉山町の境に所在し、三浦半島の付け根部分の丘陵上に位置しています。墳頂部からは西の相模湾と東の東京湾を見ることができ、眺望に優れています。

第1号墳の全長は91.3mと大型で、墳丘には後円部三段、前方部二段の段築があります。埴輪は後円部の墳頂部を中心に出土しています。後円部の中央には長さ約7mと長大な<sup>たて</sup>縦穴の埋葬施設（粘土槨）が見つっています。

出土した埴輪は壺形埴輪や円筒埴輪です。とくに円筒埴輪の透孔は三角形をしており、古い段階の埴輪であることを示しています。出土資料の形態から、4世紀中葉から後葉にかけて築造された前方後円墳と考えられています。



16 円筒埴輪  
(逗子市・葉山町長柄桜山第1号墳出土)



14 壺形埴輪

(逗子市・葉山町長柄桜山第1号墳出土)



15 壺形埴輪

(逗子市・葉山町長柄桜山第1号墳出土)



17 円筒埴輪

(逗子市・葉山町長柄桜山第1号墳出土)

## ながえさくらやま —長柄桜山第2号墳—

第2号墳は第1号墳から西に約400m離れた位置に築かれています。第2号墳の全長は約88mで、第1号墳と比べると、前方部の幅が広いのが特徴です。

第1号墳と同様に円筒埴輪と壺形埴輪が確認されています。また、墳丘の表面には第1号墳には見られなかった葺石<sup>ふきいし</sup>（) が施されています。

第2号墳は第1号墳より少し遅い時期に築造されたと考えられています。長柄桜山古墳群は、<sup>だんちく</sup>段築、葺石、埴輪列を備えており、近畿地方で成立し普及した、前方後円墳を用いた葬送祭祀のありかたを比較的よく再現しています。これらの諸施設をもたない古墳が多い神奈川県内においては、とても重要な特徴です。



葺石は、墳丘の斜面などに敷きつめられた、河原石や礫石のことだよ。



18 壺形埴輪

(逗子市・葉山町長柄桜山第2号墳出土)  
壺形埴輪の頸部です。



19 壺形埴輪

(逗子市・葉山町長柄桜山第2号墳出土)  
壺形埴輪の胴部です。

## さくらやまの —桜山うつき野遺跡—

桜山うつき野遺跡は、桜山丘陵北側の比較的緩やかな傾斜地に位置します。桜山うつき野遺跡は、長柄桜山第2号墳からみて北北東に約250mと非常に近接した位置に所在します。桜山うつき野遺跡からは壺形埴輪の破片が出土していますが、遺跡内に古墳は確認されていません。また、周囲の地形からも長柄桜山古墳第1・2号墳以外の古墳を見つけることはできません。

桜山うつき野遺跡から出土した壺形埴輪と、長柄桜山第1号墳から出土した埴輪を比較すると、ほぼ同規格の製品であることや、胎土<sup>たいど</sup>（)や成形技法が類似している点から本遺跡出土の埴輪は、長柄桜山1号墳出土の埴輪と何らかの関係を持っていると考えられています。



20 壺形埴輪  
(逗子市桜山うつき野遺跡出土)  
壺形埴輪の底部です。



21 壺形埴輪  
(逗子市桜山うつき野遺跡出土)  
壺形埴輪の胴部下半部あたりです。

## こがねづかこふんの —小金塚古墳—

小金塚古墳は伊勢原市の東端で、相模川の支流である玉川と歌川に挟まれた丹沢山塊南端部の標高30m前後のなだらかな丘陵の先端部に立地しています。古墳時代前期末葉（4世紀後葉）に築造された円墳です。

周溝から朝顔形埴輪や円筒埴輪が出土しています。朝顔形埴輪の大きな特徴は、透孔が三角形をしていることです。三角形の透孔は、朝顔形埴輪や円筒埴輪のなかでも古い時代の個体に多く施されています。また、朝顔形埴輪の壺を表現した部分は、胴部が球状に出っ張っており、朝顔形埴輪を作る際に壺部分と円筒部分を別々に作っていたころの特徴が強く残っています。



22 朝顔形埴輪  
(伊勢原市小金塚古墳出土)



23 朝顔形埴輪  
(伊勢原市小金塚古墳出土)

胎土とは、埴輪を作るときにの原材料として使った土のことだよ。



## ひさごつかごふん —瓢箪塚古墳—

瓢箪塚古墳は海老名市に所在し、秋葉山古墳群から南方約2.5kmの座間丘陵頂部に位置しています。周辺一帯に分布する上浜田古墳群の一つで、尾根筋沿いにはほぼ南北に連なり古墳群を形成しています。瓢箪塚古墳の墳形は前方後円形で墳長80m級であったと考えられています。

古墳からは朝顔形埴輪や壺形埴輪が出土しています。埴輪の特徴等から古墳時代前期（4世紀末葉～5世紀初頭）に築造されたと考えられています。



24 埴輪  
(海老名市瓢箪塚古墳出土)

円筒もしくは形象埴輪の可能性あります。



25 壺形埴輪  
(海老名市瓢箪塚古墳出土)

## かたせおおげんた —片瀬大源太遺跡—

片瀬大源太遺跡は藤沢市に所在し、片瀬山と境川に挟まれた砂丘上に位置しています。この遺跡には現在、古墳があった形跡を見つけることはできませんが、過去には高さ約10mの「スクモ塚」と呼ばれていた古墳があり、刀・剣などの副葬品とみられる資料が出土したと伝えられています。また、昭和57年度と昭和60年度に行われた開発工事に伴う発掘調査の結果、円筒埴輪片が出土しています。

円筒埴輪片の特徴から、埴輪のあった古墳が造られたのは5世紀中葉であると考えられています。



26 円筒埴輪(藤沢市片瀬大源太遺跡出土)



27 円筒埴輪(藤沢市片瀬大源太遺跡出土)

## II. 埴輪の生産と供給

埴輪の作り方は、粘土で形を作り、乾燥させ、最後に焼いて完成になります。埴輪が登場した当初は、「野焼き」という方法で焼いていました。「野焼き」は地面に穴を掘り、その穴の周囲に薪を積んで焼いていく方法です。

もう一つは「窖窯」を用いて焼く方法で、4世紀末頃に朝鮮半島から硬質の土器を焼く方法として伝えられた技術です。5世紀中葉には埴輪を作るのにも窖窯が使われるようになります。埴輪の量産ができるようになったのも、窖窯の普及が一つの要因です。

野焼きと窖窯の違いは、埴輪の外見からも確認できます。野焼きの場合は、燃料となる薪が近くで燃えているため、黒い煤が吸着すること（黒斑）が多くあります。一方、窖窯は、薪が燃える場所（燃焼部）と、埴輪を置いておく場所（焼成部）が離れているので、煤がついていないものが多くなります。

関東地方で「窖窯」を使った埴輪の生産遺跡は約27箇所確認されています。神奈川県内の埴輪生産遺跡は唯一で、川崎市宮前区に所在する白井坂埴輪窯跡です。5世紀後半から6世紀前葉にかけて操業されていたことが判明しており、近隣の古墳に供給するため、散発的な埴輪の生産が行われたようです。神奈川県内での埴輪の出土量をみると、古墳時代全体を通して埴輪の需要が周辺都県と比較すると希薄だったようで、大規模かつ継続的な埴輪生産が行われることはなかったと考えられます。

6世紀後半以降の神奈川県内の埴輪は、他地域からの搬入品に頼るようになります。特に関東最大級の埴輪生産遺跡である、埼玉県生田遺跡からの搬入が多くみられます。それ以外にも、千葉県域や群馬県域で生産された埴輪と共通する特徴を持つ埴輪も神奈川県内から出土しています。本章では、白井坂埴輪窯跡と生田遺跡の二つの生産遺跡の紹介と、両遺跡から埴輪を供給された神奈川県内の遺跡を紹介いたします。



28 本章で紹介する遺跡位置図②

## 番外編～埴輪の作り方～

- ① 粘土に砂礫されきを混ぜて、よく練ります。
- ② 粘土紐を輪のようにして積み上げていきます。この方法を「輪積み」といいます。



- ③ 輪積みにした粘土の境目を指でならします。



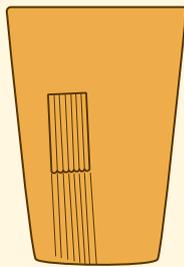
- ④ ②～③を繰り返します。



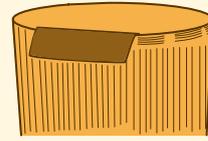
- ⑤ 表面を整えます。整える際には、木製の工具で表面をならして整えます（）。

古墳時代前半には、1次調整として縦方向に、2次調整としてを横方向に工具を使って2回に分けて整えます。

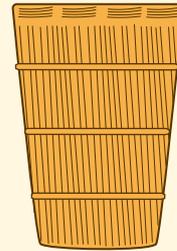
古墳時代後半になると、1回目の縦方向の調整だけで終わってしまう円筒埴輪が増加します。



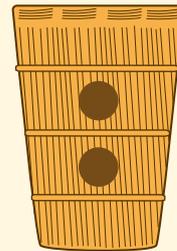
- ⑥ 上端の縁（口縁部こうえんぶ）を整えます。整える際には、動物の皮などを使い、なでて整えます。



- ⑦ 粘土紐を使って、突帯をつけます。



- ⑧ 透孔をあけます。



- ⑨ よく乾かして焼いたら完成です。

窯窯は、丘陵の斜面をトンネル状に掘って、造られました。火は下から焚いて（た 燃焼部）、煙は上から出る（煙道部）ようになっています。

埴輪は焼成部に置かれます。普通サイズの円筒埴輪なら、1回で平均20～30本焼くことができます。

埴輪は、木でできた板状の工具を使って表面を整えるよ。整えたときに板が埴輪の表面をこすって残した跡が、ハケでなでたように見えるから「ハケメ」って呼んでいるよ。埴輪についている「ハケメ」は、板状工具の、年輪の痕跡と考えられているよ。「ハケメ」を細かく分析することで、同じ工具を使って作ったかを知ることができ、埴輪の流通を知ることができるんだ。



しらいざかにはわようせき  
—白井坂埴輪窯跡—

県内唯一の埴輪生産遺跡である白井坂埴輪窯跡は、川崎市宮前区に所在しています。遺跡は多摩川と境川に挟まれた多摩丘陵北部にある、丘陵斜面から尾根上に立地しています。遺跡からは、円筒埴輪片や朝顔形埴輪片、馬形埴輪片等が見つっています。埴輪窯跡に残される埴輪は製造時の失敗等が理由で出荷されなかったものが多いため、多くは破片で出土しています。また、生産遺跡ならではのと言えるのが、埴輪の素材である粘土のかたまりが見つっていることです。

白井坂埴輪窯跡で作られた埴輪の特徴は、埴輪表面の調整に用いられた工具の痕跡であるハケメの幅が広く、また、埴輪の色が白っぽいところです。ハケメの特徴や円筒埴輪の形状から、白井坂埴輪窯跡で作られた埴輪は3群に大別することができます。

- ・ 第Ⅰ群：円筒埴輪は3条の突帯で間隔4段の構成をしています。外面（表面）の調整として、1段目を除く各段に1次調整として縦方向のハケ調整をしたあと、2次調整で横方向のハケ調整をしています。円形の透孔は、第3段のみにあけられています。
- ・ 第Ⅱ群：第Ⅰ群と同じ3条突帯、間隔4段の構成をしています。外面の調整は、1次調整の縦方向のハケ調整のみを行います。円形の透孔を第3段にのみあける個体が多いが、第2・3段にあけているものもあります。
- ・ 第Ⅲ群：具体的な構成は不明です。外面の調整は縦方向のハケ調整のみです。第Ⅱ群と比較すると小形と考えられています。

白井坂埴輪窯跡の操業は5世紀後葉から6世紀前葉までの短いもので、白井坂埴輪窯跡周辺地域の古墳に埴輪を供給するために、行われていました（）。

これから紹介する西福寺古墳や二子塚古墳は白井坂埴輪窯跡から埴輪を供給されたよ。白井坂埴輪窯跡から西福寺古墳までは約3.8km、二子塚古墳までは約5kmしか離れていないんだ。



30 円筒埴輪

(川崎市白井坂埴輪窯跡出土)  
第Ⅰ群の円筒埴輪です。



31 円筒埴輪

(川崎市白井坂埴輪窯跡出土)  
第Ⅱ群の円筒埴輪です。



32 円筒埴輪

(川崎市白井坂埴輪窯跡出土)  
第Ⅲ群の円筒埴輪です。

## さいふくじこふん —西福寺古墳—

川崎市高津区に所在し、標高約40mの概ね平坦な東西に延びる台地の西端に位置しています。径30mの円墳で、神奈川県指定史跡になっています。昭和57（1982）年に保存整備のための発掘調査が実施され、周溝から埴輪が出土しました。出土状況から埴輪は墳丘裾部を囲うように並べられていたと考えられます。

出土した埴輪の特徴として、円筒埴輪や朝顔形埴輪には、太い縦線のハケメがあります。白井坂埴輪窯跡と同様の特徴をもちます。白井坂埴輪窯跡で作られた埴輪が、西福寺古墳に供給されたことを表しています。



33 円筒埴輪  
(川崎市西福寺古墳出土)



34 円筒埴輪  
(川崎市西福寺古墳出土)



35 円筒埴輪  
(川崎市西福寺古墳出土)



36 円筒埴輪  
(川崎市西福寺古墳出土)



37 朝顔形埴輪  
(川崎市西福寺古墳出土)

## ふたごづかこふん —二子塚古墳—

川崎市高津区に所在し、多摩川右岸の自然堤防上に立地します。この古墳の存在は江戸時代にあ編まれた『しんべんむさしふどきこう新編武蔵風土記稿』に記載があります。現在では墳丘の姿を確認することはできませんが、付近に建てられた石碑には、大正時代に墳丘が削平されたと刻まれています。

令和5（2024）年に開発事業に伴う発掘調査が実施されました。その結果、周溝の一部と、埴輪が発見され、二子塚古墳の存在が確認できました。出土した埴輪の大部分が円筒埴輪で、一部朝顔形埴輪が確認されています。二子塚古墳から出土した埴輪には、白井坂埴輪窯跡で作られた埴輪と同様のハケメの特徴があります。このことから、二子塚古墳に並べられた埴輪は、白井坂埴輪窯跡で作られたものと考えられます。



38 円筒埴輪  
(川崎市二子塚古墳出土)



39 円筒埴輪  
(川崎市二子塚古墳出土)



40 円筒埴輪  
(川崎市二子塚古墳出土)

## おいねつかいせき —生出塚遺跡—

生出塚遺跡は、関東平野の中西部に広がる大宮台地の北端部東辺に立地し、埼玉県のはぼ中央に位置する鴻巣市こうのすに所在しています。

これまでの発掘調査の結果、埴輪窯跡40基、工房跡2基、粘土採掘坑跡1基、住居跡9軒、古墳18基が見つっています。埴輪窯跡は6世紀初めから末までの約100年間にわたって操業されていたことが明らかになっています。

窯跡からは円筒埴輪をはじめ、家、人物、動物（馬・鹿・猪・犬・鳥）、器財（鬘・蓋・太刀・靱・鞆・矛）など各種の埴輪が出土しています。

生出塚遺跡で作られた埴輪は関東地方各地の古墳に用いられていたことがわかっています。生出塚遺跡から約100km離れた古墳にも埴輪は供給されており、その運送方法は舟ではないかと考えられています。埴輪は、生出塚遺跡の近くで舟に載せられ、近くの船着き場を經由して元荒川を南下したか、生出塚遺跡から元荒川を遡上し、荒川に合流した後に、南下し東京湾に出ていたとも考えられています。

神奈川県内では、川崎市稲荷塚古墳、日向古墳、久本山古墳、横浜市北門1号墳などから生出塚遺跡で作られた埴輪が出土しています。



41 人物埴輪(貴人埴輪)  
(埼玉県鴻巣市生出塚遺跡出土)



42 人物埴輪出土風景



43 窯窯の様子(24号窯)

## ほっかど —北門1号墳—

横浜市緑区に所在し、鶴見川の支流である恩田川を望む台地上に位置しています。出土した埴輪は市の指定文化財に平成18年に指定されています。

発掘調査の結果、古墳が4基確認されています。なかでも1号墳の周溝からは、円筒埴輪と形象埴輪（盾・太刀など）が出土しています。1号墳は墳丘の径が約16mの円墳で、古墳時代後期（6世紀後半）に築造と考えられています。埴輪は形状や工具の痕跡、胎土の蛍光X線分析（）から、生出塚遺跡で作られた埴輪であることがわかっています。

胎土とは、埴輪を作るのに使われた、粘土と砂礫（砂や小石）を混ぜ合わせたもののことだよ。地域ごとに粘土や鉱物には違いがあるんだ。胎土に含まれる「元素」の成分や量を科学的に分析する方法を蛍光X線分析というよ。これを行うと、どこの地域の粘土を使って埴輪を作ったかわかるんだ。



### 44 人物埴輪

（横浜市北門1号墳出土）

頭に、とんがり帽子をかぶっています。服の表現があり、左前（あわせが左上）で服を着ていたこと、服の合わせ目にはリボンで結んでいたことがわかります。

袖が筒状に広がっているのが、この埴輪の特徴です。生出塚遺跡で作られ、北門1号墳に供給されたと考えられています。



### 45 人物埴輪

（横浜市北門1号墳出土）

頭頂部には、髪を結っている（島田髻）表現が残っています。首には、丸玉の粘土がついており、首飾りの表現があります。

## ひさもとやまこふん —久本山古墳—

川崎市高津区に所在し、台地の先端付近に立地していたと考えられています。現在は古墳の墳丘を確認することはできず、墳形・規模ともに不明ですが、久本山古墳出土とされている円筒埴輪と人物埴輪が伝えられています。

久本山古墳出土の円筒埴輪は、突帯の形状の違いから二種類に大別されます。I群とされている円筒埴輪は同市、すえながくぼだい末長久保台古墳出土の円筒埴輪とハケメの痕跡が一致します。II群とされている円筒埴輪は、東京都大田区たまがわだい多摩川台古墳群第1号墳出土の埴輪との類似が指摘されており、ハケメから生出塚遺跡で作られた埴輪と判明しております。一方、人物埴輪については、耳飾りなどの表現方法の特徴から生出塚遺跡以外で作られたと考えられています。



### 46 円筒埴輪（川崎市久本山古墳出土）

ハケメの特徴から、生出塚遺跡で生産されたものと特定されています。

### III. かながわのはにわ

6世紀になると、小さな古墳がたくさん作られるようになります。とりわけ、小さな古墳がたくさん集まる<sup>ぐんしゅうふん</sup>群集墳が各地で造られるようになります。これまで、古墳を作ることのできなかった有力者たちにまで、古墳造営が広がります。古墳の数が増えることに比例して、埴輪を作る数も増えました。数が増えるにともない、埴輪のモチーフや表現には地域色が出現し、東日本では近畿地方の埴輪文化とは異なる独自の埴輪が作られるようになります。

本章では、古墳時代後期（5世紀末葉）以降の埴輪を中心に神奈川県で出土した、様々な埴輪の一部をご紹介します。

#### 一朝顔形埴輪

朝顔形埴輪は、円筒埴輪に壺をのせた状態を表現した埴輪です。形態の特徴は、丸い肩にくびれた頸部、ラッパ状に口縁が開くことです。開いた口縁が朝顔の花弁に見えることから、朝顔形埴輪と名づけられました。円筒埴輪に続き、4世紀初頭に登場した朝顔形埴輪は、埴輪が作られなくなる6世紀後葉～7世紀初頭まで、持続して作られています。

初期の朝顔形埴輪では、壺の胴部が円筒部の径よりも大きくはみ出して表現されていました。しかし、後期のものになると、表現が簡略化され、円筒部と一体化します。



47 朝顔形埴輪  
(藤沢市江島神社辺津宮周辺出土)

朝顔形埴輪の口縁部です。外面は縦方向のハケ調整が施されています。



48 朝顔形埴輪  
(横浜市港北区日吉矢上古墳周辺出土)

朝顔形埴輪の円筒部と壺の頸部です。透孔付近に4本の斜線が刻まれているのが特徴的です。



49 朝顔形埴輪  
(横浜市戸塚区上矢部町富士山古墳出土)



50 朝顔形埴輪  
(横須賀市蓼原古墳出土)

## —円筒埴輪—

円筒埴輪は、特殊器台がもとになって作られた埴輪です。3世紀後半から登場し、埴輪が消滅するまで継続して使われました。登場した当初は、2 m以上の大型円筒埴輪も作られていましたが、古墳時代の後半には、1 mに満たない小型の円筒埴輪の生産が主流になります。



51 円筒埴輪

(藤沢市江島神社辺津宮周辺出土)

円筒埴輪の下半部が残っています。透孔は第二段目に空けられており、円形または、半円形をしていると思われます。



52 円筒埴輪

(三浦市<sup>かなほりつか</sup>金堀塚古墳出土)



53 円筒埴輪

(川崎市高津区<sup>すえながくぼだい</sup>末長久保台古墳出土)



54・55 円筒埴輪 (大磯町<sup>ぼうち</sup>坊地古墳出土)

一つ古墳から胎土の色が異なる埴輪が出土しています。左が黄白色系で、右が明赤褐色系の色をしています。色の違いや製作技法の違いは工人集団の違いにもつながります。坊地古墳は二つの供給先から埴輪を搬入していたのかもしれませんが。



56 円筒埴輪

(厚木市<sup>どうやま</sup>登山1号墳出土)



57 円筒埴輪

(横須賀市蓼原古墳出土)



58 円筒埴輪

(横浜市戸塚区上矢部町富士山古墳出土)



59・60 円筒埴輪

(横須賀市<sup>やわたじんじゃ</sup>八幡神社4号墳出土)

## 一家形埴輪

家形埴輪は、4世紀前半に登場します。神殿、住居、倉庫などを模り、古墳時代の建物を具体的に表現しています。屋根の構造から「切妻造」<sup>きりつまづくり</sup>「寄棟造」<sup>よせむねづくり</sup>「入母屋造」<sup>いりもやづくり</sup>にわけることができます。また、平屋か高床かによって「平地式」<sup>ひらや</sup>「高床式」<sup>へいちしき たかゆかしき</sup>にもわけることができます。

切妻造は、屋根の屋上部から2方向に屋根が山形に傾斜するものをいいます。

寄棟造は、4方向に傾斜する屋根をもつものをいいます。四柱とも呼ばれています。

入母屋造は、寄棟造の屋根を下、切妻造の屋根を上にして作られたものをいいます。

平地式は、地面が床についている構造のものをいいます。高床式は、床が地面から離れている構造で、高床式倉庫などを表しています。

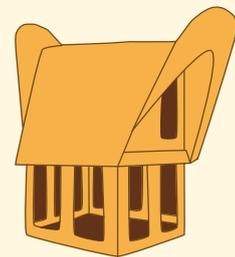


### 61 家形埴輪

(厚木市登山1号墳出土)  
<sup>どうやま</sup>

厚木市登山1号墳からは、ほぼ完形の家形埴輪が出土しています。屋根の構造から寄棟造と考えられています。

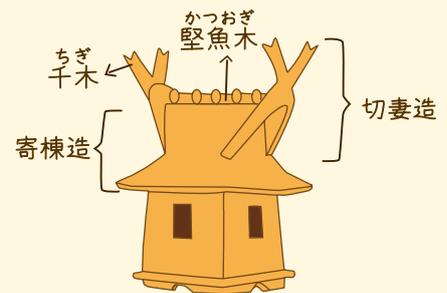
また、屋根の上には堅魚木<sup>かつおぎ</sup>の表現があります。



切妻造 + 高床式



寄棟造 + 平地式



入母屋造 + 平地式

### 62 家形埴輪の種類と名称

家形埴輪の種類はほかにも「入母屋造 + 高床式」などがあるよ。家の中がみえるような開放的な家形埴輪もあるよ。



## —器財埴輪—

器財埴輪は威儀具（権力者が身分や、威厳を示すために用いた特別な道具）や武器・武具などを模り作ったものです。器財埴輪は4世紀中葉から登場します。当初は、実物を忠実に作っていましたが、時期が下るにつれ小型化や線刻表現などによる省略化が進みます。

器財埴輪の一つに翳形埴輪があります。翳形埴輪は長い柄のついた団扇のような形状をしています。翳という、従者が貴人の顔を隠すためにかざすものをモデルにしています。翳形埴輪には、中央に円孔があるものと、円孔をもたないものの二種類があります。



63 翳形埴輪（横浜市緑区北門Ⅰ号墳出土）

放射線状に線が刻まれており、団扇の骨を表現していると考えられます。



64 翳形埴輪

（埼玉県鴻巣市生出塚遺跡出土）

円孔をもたない種類の翳形埴輪です。円筒の器台に細長い粘土紐を貼り付けて柄を表しています。三つ葉形は、団扇の骨を表現しています。要から放射線状に開く扇面が表現されています。

大刀形埴輪は、5世紀中葉に近畿地方で登場し、関東地方では6世紀になって盛んに作られるようになります。大刀形埴輪は、細長い円筒の上に柄を取り付けて表現しています。刀身の表現はなく、鞘の中に納めた状態をかたどっています。



65 大刀形埴輪

（横浜市緑区北門Ⅰ号墳出土）

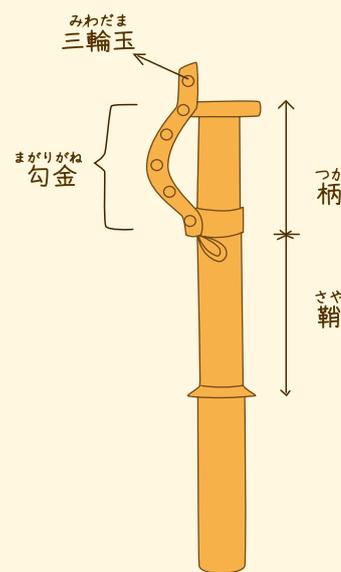
三輪玉の表現はありませんが、柄にとりつける勾金を模った部分を表しています。



66 大刀形埴輪

（埼玉県鴻巣市生出塚遺跡出土）

勾金には三輪玉が装飾されています。板状の鍔からたれさがった粘土紐は、腰に装着するときの紐の可能性がります。



67 大刀形埴輪の部位名称

靴形埴輪は、<sup>ゆき</sup> 鍬を上に向けて矢を納め、<sup>やしり</sup> 背中に背負って使う道具を模った埴輪になります。靴形埴輪には大別して二種類あります。一つは矢筒部分が四角い箱形で、周囲に<sup>ひれかざ</sup> 鰭飾りの<sup>せいた</sup> 背板がついている大型で豪華なつくりです。近畿地方を中心に4世紀後半から5世紀後半まで作られていました。二つ目は、円筒形の台部の上に<sup>やっこだこ</sup> 奴 舩形の背板を取り付けたものです。鍬は粘土紐や線を刻んで表します。この靴形埴輪は、主に6世紀代の関東で見られます。



68・69 器財形埴輪

(横浜市緑区北門1号墳出土)

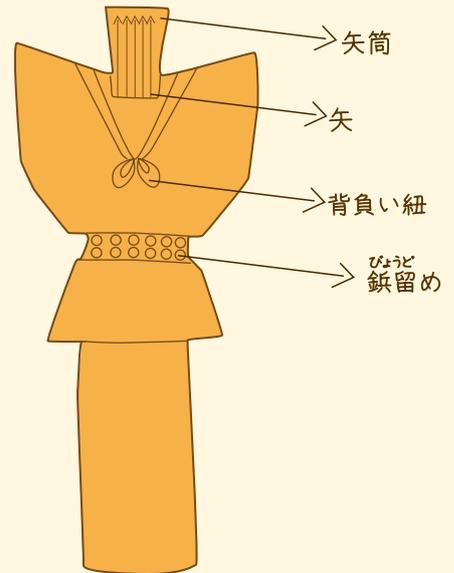
粘土紐で紐の輪っかを表現しています。この表現から、この二つの埴輪は、太刀形埴輪の鞘部分か、靴形埴輪の背負い紐部分の表現のものと考えられます。



70 靴形埴輪

(埼玉県鴻巣市生出塚遺跡出土)

奴 舩を思わせる鰭状の飾りがついています。矢筒の周りや裾の部分には鋳留めの表現があります。



71 靴形埴輪の名称

<sup>たて</sup> 盾形埴輪は、器財埴輪のなかでも最初期に登場し、最後まで作られました。盾のモデルには木製と革製の2種類があります。上辺が直線的なのが木製、弧状に膨らむのが革製を模したものであることが多いようです。盾面には<sup>きょしもん</sup> 鋸齒文や<sup>ちよっこもん</sup> 直弧文 (🏰) などの文様が施されることがあります。



72 盾形埴輪 (横浜市緑区北門1号墳出土)

基底部から盾下半部が残っています。上半部が残っていないので、木製と革製どちらを模しているのかは不明です。



鋸齒文は、のこぎりの歯のように三角形を連続させた文様のことだよ。イメージとしてはこんな感じ (▲▲▲▲) かな。中の斜線はあったり、なかったりするし、斜線の向きが違ったりするよ。

直弧文は、直線と弧線を複雑に組み合わせた文様のことだよ。イメージとしてはこんな感じ (🏰) かな。



## —動物埴輪—

動物埴輪は4世紀中葉に登場します。動物埴輪にはたくさんの種類があります。鳥（鶏、水鳥、鶺鴒、鷹）、馬、鹿、犬、猪のほか、珍しいものでは魚などの埴輪があります。

神奈川県内でも、動物埴輪の出土が確認されています。その多くは、馬形埴輪や鳥形埴輪です。馬形埴輪は日本列島に乘馬の風習が伝わり、古墳に馬具が副葬されるようになる5世紀中葉から作られるようになります。登場した当初は、蹄の表現などがあり、馬具なども本物に忠実に表現していました。しかし、時代が経つにつれ、蹄の表現はなくなり脚が長く伸び、先端まで円筒状に作られるようになります。

馬形埴輪には二種類あります。一つ目は、馬具を身に着けた馬形埴輪です。飾り馬ともいわれています。二つ目は、面繫と手綱を付けただけで、そのほかの装飾がない馬形埴輪です。裸馬ともいわれています。馬形埴輪が登場する5世紀中葉から、埴輪がなくなる6世紀末～7世紀初頭までの間、全期間を通して、作られました。



73 馬形埴輪（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

馬形埴輪の顔部分です。鏡板と引手の表現があります。



74 馬形埴輪（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

馬形埴輪の顔部分です。手綱や面繫と思われる紐の表現があります。



75 馬形埴輪（川崎市高津区末長久保台古墳出土）

馬形埴輪の尾の部分です。紐を巻き付けている尻尾の表現があります。



76 馬形埴輪

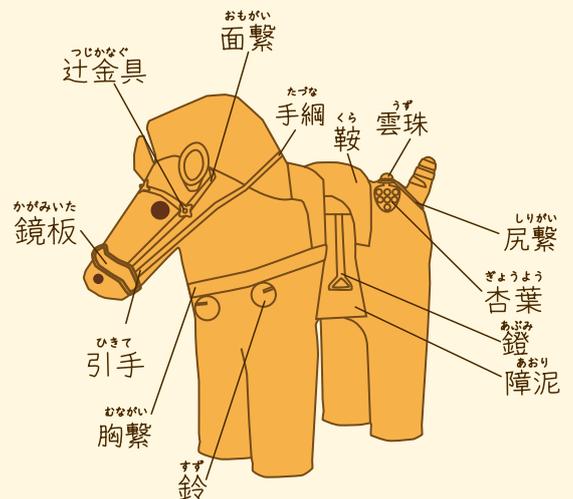
（川崎市高津区末長久保台古墳出土）

馬形埴輪の脚部分です



77 馬形埴輪（川崎市高津区稲荷塚古墳出土）

鞍や鐙などの馬具の表現があります。飾り馬としてつくられました。



78 馬形埴輪の部位名称

神奈川県内で馬形埴輪の次に出土事例が多いのは鳥形埴輪です。鳥形埴輪は4世紀中葉から登場します。鳥形埴輪には、鶏、水鳥、鶉、鷹（猛禽類系）等の種類があり、一番古くに登場するのは鶏形埴輪で、次に登場するのは水鳥です。

鶏形埴輪は、その名前のおとりにワトリを模しています。鶏形埴輪は、動物埴輪のなかでもっともはやく4世紀中葉から登場します。頭に鶏冠<sup>とさか</sup>をもち、翼や尾羽<sup>おぼね</sup>の表現が線刻でなされています。脚の表現はほとんど省略され、円筒部と一体化になっています。

水鳥形埴輪は、鶏形埴輪よりやや遅れた4世紀後半から登場します。水鳥形埴輪のモチーフは、ハクチョウなどの渡り鳥とされています。

神奈川県内では、鳥形埴輪の出土事例として、鶏形埴輪や水鳥形埴輪が確認されていますが、鶉や鷹をモチーフにした埴輪は神奈川県内での出土事例は現在、確認されていません。



79 鳥形埴輪（川崎市高津区西福寺古墳出土）

鳥形埴輪の頭部です。頭のとっぺんに鶏冠の表現があることから、鶏とされます。



80 鳥形埴輪（横浜市戸塚区上矢部町富士山古墳出土）

鳥形埴輪の基底部以外が出土しました。くちばしがアヒルのようになっているので、水鳥と考えられています。



81 鳥形埴輪（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

鳥形埴輪の頭部です。



82 鳥形埴輪（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

鳥形埴輪の頭部です。



83 鳥形埴輪（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

鳥形埴輪の頭部です。頭のとっぺんに鶏冠の表現があるため、雄鶏と考えられています。

## —人物埴輪—

人物埴輪は、5世紀中葉から登場します。人物埴輪には貴人や武人、馬ひき等のさまざまな職業の人々が表現されています。人物埴輪の所作には一定の法則があります。座っている姿で作られた坐像、足元まで表現されている全身立像、腰まで表現された半身立像に分けられます。

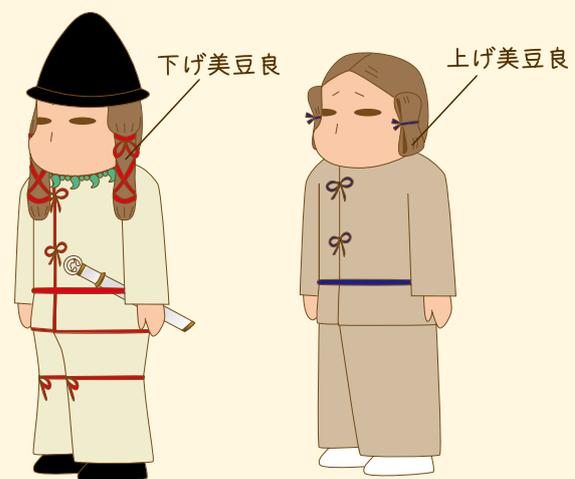
坐像は埴輪が置かれた場面で最も身分の高い人物を示します。椅子に座って表現されることが多いです。全身立像は男性の場合が多く、甲冑の表現がある武人、正装をした身分の高い貴人等がいます。半身立像で多くみられるのは女性です。両手を胸の前に掲げて、飲食物などを捧げる所作をした女性の埴輪は食事や身の回りの雑事を取り仕切っていた采女ではないかと考えられています。男性の半身立像もあります。そのなかで、馬形埴輪の近くで片腕を掲げているのは馬をひいている姿を表している馬ひきと考えられています。有名な「踊る埴輪」も、実際は踊っているのではなく、馬ひきだと考えられています。

女性埴輪を見分けるポイントは、第一に胴部に胸の表現があるかです。胸の表現がある場合は、女性を表しています。第二に髪型です。髪の毛を頭の上で結び、前後に折り返して束ねる髪型（島田髷）は女性の髪型を表現しています。埴輪では上記の髪型を、板状に表現し、真ん中に紐の表現をつけて表しています。第三に衣装です。布を片方の肩の上で結んで、裾が広がった表現をしているものを袈裟状衣といいます。この服を着ている埴輪は、女性です。

男性埴輪を見分けるポイントは、第一に髪型です。男性埴輪は女性埴輪と比較すると、髪型の種類が多いです。前髪を真ん中で分けている、振り分け髪の表現や、耳の両側で髪の毛を束ねる髪型（美豆良）の表現をしている埴輪は、男性の埴輪です。美豆良には、おさげのようにしている下げ美豆良と、折り返して短くまとめる上げ美豆良の表現があります。下げ美豆良は高貴な身分の証でもあります。第二に衣装です。男性の埴輪は、冠や頭部を覆うさまざまな帽子をかぶっていることがあります。腰帯を伴う上衣、袴、籠手、大刀なども身につけています。



84 女性の衣装



85 男性埴輪の髪型

左の下げ美豆良は身分の高い人物の髪型であることが多いです。右の上げ美豆良は身分の高くない人（馬ひき等）の髪型として使われることが多いです。



### 86 人物埴輪

(川崎市末高津区末長久保台古墳出土)

埴かん (小さな壺) を捧げ持つ所作をしています。髪型や衣服の表現は不明ですが、捧げ持つ所作から女性の埴輪ではないかと思われます。



### 87 人物埴輪

(厚木市登山1号墳出土)

髪を結び(島田髻)、首元には首飾りの表現があります。欠損しているため、詳細は不明ですが、右腕を上げる所作をしています。



### 88 人物埴輪

(川崎市高津区久本山古墳出土)

首には丸玉と勾玉の首飾りを二連でつけています。また、耳には耳飾りを付け、手首にも丸玉の腕輪をつけています。頭のでっぺんには縦櫛と思われる表現があります。



### 89 人物埴輪

(横須賀市蓼原古墳出土)

手を大きく広げるしぐさをしていいます。首には勾玉の首飾り、腰回りに帯を付けています。



### 90 人物埴輪

(川崎市高津区久本桃之園古墳出土)

なにかを捧げるように手を前に差し出すしぐさをしています。耳には耳飾り、首には丸玉の首飾りをつけています。また、左上から右下にかけて斜めに伸びる襷の表現があります。

何かを捧げるような、両手を前に差し出すしぐさをしているのは、女性の埴輪に多く確認されているよ。ほかにも、両腕を上あげるしぐさをしている女性の埴輪も見かけるね。





91 人物埴輪

(川崎市中原区上丸子古墳出土)

人物埴輪の頭部です。頭頂部に何か  
が取れたような痕跡があるため、島田  
髻が剥離した痕だと考えられています。



92・93 人物埴輪 (厚木市登山Ⅰ号墳出土)

髪を頭頂部で束ね、島田髻を結っています。写真右側の埴輪には、<sup>じかん</sup>耳環とい  
う耳飾りの表現もあります。



94 人物埴輪

(厚木市登山Ⅰ号墳出土)

顔の脇に美豆良の跡があるため、こ  
の埴輪は男性の埴輪と考えられていま  
す。



95 人物埴輪

(厚木市登山Ⅰ号墳出土)

人物埴輪の頭部です。帽子の表現と  
美豆良の痕跡があるため、男性の埴輪  
です。また、顔や首周りに朱を塗って  
います。



96 人物埴輪

(川崎市中原区上丸子古墳出土)

人物埴輪の頭部です。真ん中から二  
つに分けた髪(振り分け髪)を美豆良  
に結っています。



97 人物埴輪 (横須賀市蓼原古墳出土)

人物埴輪の頭部です。とんがり帽子の縁には帯状の表現があります。さらに  
その上には、四角状の飾りが貼り付けられています。

髪は三方に分け、両耳のところで下げ美豆良に結っています。残りの髪は後  
方で束ねています。顔や美豆良には、赤い彩色が施されています。

<sup>たてもちびと</sup>

盾持人埴輪は、大きな盾から顔を出した姿の埴輪です。出現時期は、人物埴輪のなかでは一番  
古く、東日本では、古墳時代中期末に多く作られました。人間の頭と盾が一体化したような姿を  
しており、手足が表現されないのが特徴の埴輪です。古墳と被葬者を悪いものから守る役割を担っ  
ていたと考えられています。盾持人埴輪は頭部・円筒部・盾部の三つのパーツで構成されます。  
円筒部の上に頭を載せ、円筒部の前面に盾部を貼り付けるのが基本の作り方になります。しかし、  
時代を経るにつれて、円筒部の両脇に<sup>ひれ</sup>鰭のように板状のものを貼り付けて、円筒部の前面と板状  
の鰭をもって盾部にする表現が表れます。



### 98 盾持人埴輪

(横浜市戸塚区上矢部町富士山古墳出土)

頭部には帽子の表現があります。耳の表現なのか、孔があいています。

盾は胴体の円筒に貼り付けられています。盾上部には、並行に線を3本ひき、その間に鋸歯文が施されています。また、平行にひかれた線の上には、刺突文が施されています。



### 99 盾持人埴輪

(横浜市戸塚区上矢部町富士山古墳出土)

頭部には帽子の表現があります。耳の表現なのか、孔があいています。

首回りを一周するかのよう粘土紐が貼り付けられています。盾は胴体である円筒に貼り付けられています。また、盾の上部には、並行に3本の線を引き、その間に鋸歯文が施されています。



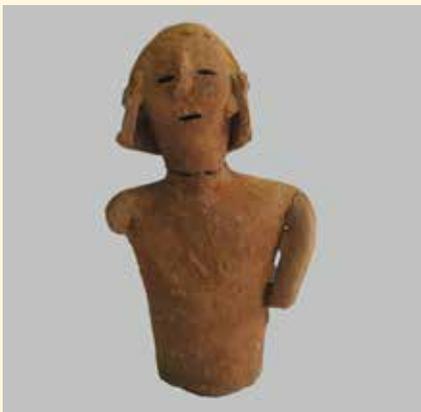
### 100 盾持人埴輪

(川崎市高津区久本桃之園古墳出土)

頭部は上部が広がり、帽子を被っています。耳には耳飾りの表現がありません。

盾の左右は内側に弓なりにくびれています。また、盾には、鋸歯文が横3段に施されています。

武人埴輪は、その名前のとおり、武人を表しています。頭に被っているのは衝角付胃しょうかくつきかぶと、上半身から太ももまでを守る挂甲けいこう、草摺くさずり、腕を保護する籠手を着用している表現があります。



### 101 人物埴輪

(川崎市中原区上丸子古墳出土)

後頭部と頸部を覆う表現があります。鋏留めの表現はありませんが、胃の表現です。また、耳の近くには美豆良の表現の痕跡があります。

腕の所作から、大刀を抜く抜刀のポーズをしていた可能性があります。

### 102 人物埴輪

(厚木市登山1号墳出土)

頭部には、衝角付胃を被っており、髪は下げ美豆良です。右腕を前に出すしぐさ、腰には大刀を佩はいています。足には、袴のひざ下を紐で結ぶ表現あゆい（脚結）が見られます。



相撲をとる力士を模した埴輪は、日本各地から出土しています。古墳時代に広く、相撲が行われていたことがわかります。力士埴輪のポーズには、両手を前に出し、取り組みの所作をしている姿と、肩腕を上げもう片方の腕を腰に着けた現在の土俵入りのような姿があります（）。

多くの力士埴輪の共通点は、<sup>ふんどし</sup> 褌をつけていることです。両足の表現があり全身立像で作られることも特徴として挙げられます。ほかにも、足の甲に突起がついている力士埴輪や、頭髪の表現が坊主頭や鬘を結っている力士埴輪もあります。



103 人物埴輪

（厚木市登山Ⅰ号墳出土）

頭部には帽子や頭髪の表現が見られないことから、この埴輪はもともと坊主頭だったと思われます。耳には耳飾りの表現があります。

右腕の状況から、肩腕を上にあげるしぐさをしていたと思われます。下腹部には粘土が剥がれた痕跡があることから、褌を締めていたと考えられます。足には指の表現と、甲には円錐形の突起がついています。



104 人物埴輪

（川崎市末高津区末長久保台古墳出土）

人物埴輪の頭部です。髪の表現が見られないことから、坊主頭の埴輪と思われます。

同古墳から力士埴輪の足と思われる埴輪が出土していることから、力士埴輪の頭部と考えられています。



105・106 人物埴輪（川崎市高津区末長久保台古墳出土）

どちらも類似している埴輪です。全身立像の円筒部と足の一部が残っています。地面を踏みしめているような足が貼り付けられています。足の甲には、小さな粘土の塊が円錐形に貼り付けられています。指もとれてしまっている部分は多いですが、一本ずつ粘土で張りつけて表現しています。

足部分のみの出土ですが、足の甲に円錐形の粘土を貼り付けている厚木市登山Ⅰ号墳出土の力士埴輪との類似性から、この埴輪も力士埴輪と考えられています。

片手をあげる姿は<sup>しこ</sup>四股を踏んでいる姿だと言われているよ。四股を踏むのは、地面にある悪いものをはらうための所作だっていわれているんだ。



琴を弾く埴輪の多くが、椅子に座り、膝の上に琴を置いています。現在のところ、琴を弾く埴輪の性別は男性であることが多いです。

共通点としては、帽子のような被り物があり、髪型は下げ美豆良、腰には太刀の表現が見受けられます。琴は指で爪弾く表現と、撥ばちを使っている表現の2種類があります。



#### 107 人物埴輪（横須賀市蓼原古墳出土）

頭にとがり帽子を被り、下げ美豆良を長く垂らしています。首飾りと腰には幅広の帯を巻いています。

椅子に座っており、琴は4弦を表すように粘土紐が4本並行についています。右手の先端部が欠損していることから、撥ばちを持っていた可能性があります。顔と帯には赤い彩色が施されているのがわかります。

#### 本章で紹介した埴輪の出土遺跡一覧

- ・日吉矢上古墳：横浜市港北区に所在。古墳時代中期（5世紀中葉）の円墳。
- ・上矢部町富士山古墳：横浜市戸塚区に所在。古墳時代後期（6世紀中葉から後半）の円墳。出土した埴輪は市の指定文化財に平成3年に指定されています。
- ・蓼原古墳：横須賀市所在。古墳時代後期（6世紀中葉）の帆立貝形古墳。出土した埴輪は市の指定文化財に平成15年に指定されています。
- ・金堀塚古墳：三浦市所在。古墳時代後期（6世紀）と考えられていますが、詳細は不明です。
- ・坊地古墳：大磯町所在。古墳時代後期（6世紀初頭）と考えられていますが、詳細は不明です。
- ・江島神社辺津宮：藤沢市に所在。埴輪は開発工事中に発見。古墳の存在については不明のままです。
- ・登山1号墳：厚木市に所在。古墳時代後期（6世紀初頭）の円墳。
- ・末長久保台古墳：川崎市に所在。古墳時代後期（6世紀初頭）の円墳もしくは帆立貝形古墳と考えられています。
- ・八幡神社4号墳：横須賀市に所在。古墳時代後期（6世紀中葉）の円墳。
- ・稲荷塚古墳：川崎市に所在。古墳時代後期（6世紀後葉から末葉）の円墳と考えられています。
- ・久本桃之園古墳：川崎市に所在。古墳時代後期（6世紀）の円墳と考えられています。
- ・上丸子古墳：川崎市に所在。埴輪の形状から古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられていますが、詳細は不明です。

## IV. おわりに

大変盛んに作られた埴輪も、6世紀末以降は衰退します。前方後円墳と埴輪を用いて、近畿地方の大王を頂点とした有力者たちとの連合を示した時代は終わりを迎えました。

7世紀以降は仏教文化が新時代の象徴として、列島に広まります。そして法による律令国家の構築を目指す動きが加速していきます。

## 写真の所蔵・提供機関

横浜市歴史博物館：49、80

川崎市教育委員会：32、38～40、77、90、100

小田原市教育委員会：10

厚木市：61、81～83、87、102、103

海老名市教育委員会：24

鴻巣市教育委員会：41～43、64、66、70

## 出土品の所蔵機関

横浜市歴史博物館：11、44、45、48、49、58、63、65、68、69、72、80、98、99

※横浜市指定文化財「上矢部町富士山古墳出土埴輪」の整理活用には、公益財団法人朝日新聞文化財団の文化財保護活動への助成金が活用されています。

川崎市教育委員会：30～40、46、53、75～77、79、86、88、90、91、96、100、101、104～106

横須賀市自然・人文博物館：50、52、57、59、60、89、97、107

小田原市教育委員会：10

藤沢市：26、27

厚木市：56、61、73、74、81～83、87、92～95、102、103

海老名市教育委員会：6～9、24、25

葉山町教育委員会：14～17

大磯町教育委員会：54、55

鴻巣市教育委員会：41、64、66、70

宗教法人江島神社：47、51

専修大学：22、23

## 参考文献 ※ページの関係上、報告書の記載は省略しています。

- 1 稲村繁 1992 「三浦半島の埴輪（I）」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第37号、横須賀市自然・人文博物館
- 2 稲村繁 1996 「神奈川県の埴輪（I）—埴輪出土の古墳・遺跡について—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第41号、横須賀市自然・人文博物館
- 3 稲村繁 2004 「神奈川県の古墳（Ⅲ）—神奈川県古墳地名表（1）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第48号、横須賀市自然・人文博物館
- 4 稲村繁 2005 「神奈川県の古墳（Ⅳ）—神奈川県古墳地名表（2）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第50号、横須賀市自然・人文博物館
- 5 稲村繁 2012 「神奈川県の古墳（Ⅴ）—神奈川県古墳地名表（3）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第57号、横須賀市自然・人文博物館
- 6 稲村繁 2013 「神奈川県の古墳（Ⅵ）—神奈川県古墳地名表（4）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第58号、横須賀市自然・人文博物館
- 7 稲村繁 2015 「神奈川県の古墳（Ⅶ）—神奈川県古墳地名表（5）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第60号、横須賀市自然・人文博物館
- 8 稲村繁 2016 「神奈川県の古墳（Ⅷ）—神奈川県古墳地名表（6）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第61号、横須賀市自然・人文博物館
- 9 稲村繁 2017 「神奈川県の埴輪（Ⅱ）—外来系埴輪の分布と交通路（前）—」『横須賀市博物館研究報告』第62号、横須賀市自然・人文博物館
- 10 稲村繁 2018 「神奈川県の古墳（Ⅸ）—神奈川県古墳地名表（7）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第63号、横須賀市自然・人文博物館
- 11 稲村繁 2020 「神奈川県の古墳（Ⅹ）—神奈川県古墳地名表（8）—」『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第64号、横須賀市自然・人文博物館
- 12 宇垣匡雅 2016 「特殊器台祭祀の性格とその波及」『古代吉備』第27集、古代吉備研究会
- 13 宇垣匡雅 2018 「弧帯文の特性」『古代吉備』第29集、古代吉備研究会
- 14 太田博之 「埴輪の生産と流通—生出塚埴輪窯製品の広域流通をめぐって—」『季刊考古学』第79号、株式会社雄山閣
- 15 株式会社盤古堂考古資料展示室 2002 『盤古堂考古資料室展示図録Ⅰ 青砥山ノ下第1号墳とその時代—私たちが調査をした神奈川の古墳から—』株式会社盤古堂
- 16 川崎市市民ミュージアム 2006 『弥生・古墳・飛鳥を考える—古墳の出現とその展開—』川崎市市民ミュージアム
- 17 川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号、日本考古学会
- 18 河野正訓・山本亮 2024 『はにわのヒミツ』精興社
- 19 埼玉県立さきたま史跡の博物館 2014 『平成26年度企画展 ハニワの世界』埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 20 埼玉県立さきたま史跡の博物館 2022 『令和4年度企画展図録 家形埴輪』埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 21 鈴木重信 1990 「川崎市高津区末長久保出土の埴輪」『川崎市文化財調査集録』第25集、川崎市教育委員会
- 22 高田大輔 2010 『シリーズ「遺跡を学ぶ」073 東日本最大級の埴輪工房 生出塚埴輪窯』株式会社新泉社
- 23 伝田郁夫 2011 「Ⅳ. 考古学的検討 3 諏訪天神塚古墳出土の埴輪をめぐって」『諏訪天神塚古墳—玉川低地の遺跡群研究—』川崎市市民ミュージアム考古学叢書7、川崎市市民ミュージアム
- 24 伝田郁夫 2018 「南武蔵における埴輪精査の一樣相—神奈川県川崎市高津区末長久保一号墳の分析事例から—」『史観』第179冊、早稲田大学史学会
- 25 塚田良道 2015 『埴輪を知ると古代日本人が見えてくる』株式会社洋泉社
- 26 栃木県立しもつけ風土記の丘博物館 1998 『第12回企画展 器財埴輪の世界—関東の器財埴輪—』栃木県教育委員会
- 27 栃木県立しもつけ風土記の丘博物館 2001 『第15回企画展 ようこそ！はにわのふるさと—関東の埴輪窯跡を訪ねて—』栃木県教育委員会
- 28 浜田晋介 1991 「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム紀要』第4集、川崎市市民ミュージアム
- 29 浜田晋介 1996 「川崎の埴輪Ⅱ」『川崎市市民ミュージアム紀要』第9集、川崎市市民ミュージアム
- 30 春成秀爾 2011 『祭りと呪術の考古学』株式会社塙書房
- 31 古屋紀之 2007 『古墳の成立と葬送祭祀』株式会社雄山閣
- 32 横浜市歴史博物館 2020 「上矢部町富士山古墳出土埴輪の再整理報告」『横浜市歴史博物館調査研究報告』Vol.16、（公財）横浜市ふるさと歴史財団
- 33 横浜市歴史博物館 『横浜市歴史博物館企画展横浜の古墳と副葬品』横浜市歴史博物館・（財）横浜市ふるさと歴史財団 2001
- 34 若狭徹 2013 『シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊04 ビジュアル版古墳時代ガイドブック』株式会社新泉社
- 35 若狭徹 2021 『考古調査ハンドブック22 埴輪—研究法と解釈法』株式会社ニュー・サイエンス社

## 協力者・協力機関 ※敬称略、順不同

橋口豊 新井悟 榊しおり 櫻井はるえ 金澤真理子 宇都洋平 加藤夏姫 佐藤健二 押方みはる 西川修一 山口正憲 國見徹 菊池耕晏 堀寄壮 小林孝秀 山本亮 伝田郁夫 塚田良道 横浜市歴史博物館 川崎市教育委員会 横須賀市自然・人文博物館 小田原市教育委員会 藤沢市 厚木市 海老名市教育委員会 葉山町教育委員会 大磯町教育委員会 鴻巣市教育委員会 宗教法人江島神社 専修大学



令和7年度 かながわの遺跡展

あつまれ!!かながわのはにわ

発行日 2025年12月18日

編集 神奈川県教育委員会教育局生涯学習部

文化遺産課中村町駐在事務所（神奈川県埋蔵文化財センター）

発行 神奈川県教育委員会

印刷 株式会社ファムロード